

「年老いた母親への家庭内暴力」 ～娘と娘の内縁の男を巡って～

- 仮名：Iさん
- 年齢：68歳
- 性別：女性

【老後は幸せなはずだった】

「もともと穏やかな性格の娘だったのに…」。Iさんは、娘と孫、そして娘の内縁の男性からの家庭内暴力がエスカレートして、その暴力に耐えきれなくなってやってきた。Iさんの夫は5年前に他界し、それからは一人暮らしをしていたが、娘（40才）が3年前に離婚し、2人の子ども（14才、8才）を連れて出戻って来たため、夫の残した敷地100坪の持ち家で、一家4人で同居することになった。代々、受け継がれた自営業の資産があり、経済的には困らなかったことから、娘と孫達と同居することに戸惑いはなく、共に暮らせることはIさんにとっての喜びにもなっていた。Iさんと娘、孫の4人での平穏な生活は2年程続いた。しかし、そんな幸せな生活も、あることを境に激変していった。

【無責任な内縁の男】

Iさんと娘、孫2人での家族水入らずの生活が始まって2年が過ぎたある日のこと。地元のスナックで働いていた娘が常連客の男性と付き合いようになり、自宅にも頻繁に出入りするようになった。Iさんは、素性のよく分からないその男性と、2人の子どもを抱えた娘が付き合い方について、内心は快く思えずにいた。

しばらくすると、男性はIさん宅に入り浸るようになり、まもなく男性が転がり込んできた。内縁の男性は気が向いた時だけ働きに出る程度で、家にはほとんどお金を入れず、有り金は全てパチンコで使ってしまう。さらに、気に入らないことがあるとIさんに対して威圧的な口調になり、時には突き飛ばしたりもする。また、子ども達に興味を示すこともなく、娘とも籍を入れようとしなかった。そんな環境の中で、Iさんと娘、孫達との関係も次第に悪化していった。「私達の面倒を見るのが当然だろ」。娘がIさんに対して乱暴な口調で責め立て、金銭を要求する。やがて、その様子を見ていた孫達も同様に、Iさんに対して金をせびるようになった。金を渡さなければ壁を叩いて脅したり、金属バットを持って暴れる。次第に孫からの暴力もエスカレートしていき、Iさんは孫からこづかれたりするようになっていたが、娘はそれを見て見ぬふりしていた。

【現実的な案として】

Iさんは「とにかく娘を家から出したい」ということだったが、それに対して二つの案を出した。一つめは、娘に土地の相続放棄をさせて二世帯住宅に改築し、Iさんの力を強くすることで、立場を逆転させる方法である。二つめは、Iさんが「虐待を受けている」と裁判所の調停に訴えること。いじめがエスカレートした時点ですぐに警察を呼び、まずは履歴を残す。それを数回繰り返したうえで、Iさんが家を出る。そこから調停を起こし、娘達に対して退去勧告を行う。「家の所有権は私にあるのに暴力を振るわれ、家賃も払ってもらえない」と訴え、強制的に娘達を退去させる方法だ。二世帯住宅にする場合は、「改築には400万程かかるけど、あなたに負担をかけたくないから、私が自分の名義でローンを組んでお金を借りるから。その代わりに、家賃は払ってね。私が死んだら土地も家もあなたのものになるから」と娘に伝える。もちろん、ただ二世帯住宅にするだけなら娘は相続放棄をしないだろう。これには具体的な見積書を見せながら説得する。さらに、「二世帯住宅を建てるには融資が必要で、このままで融資をしたら、あなたにも返済義務がある」と言って理詰めにする。こうすることで娘は「それなら、放棄する方が楽だ」と考えるだろう。娘が相続放棄すれば、土地は全てIさんの名義になり、所有権が全て移る。こうすることで、いざ娘達を出すときに話がしやすくなり、娘も権利を主張できなくなるのである。それにより、母と娘の立場が変わってくる。

二世帯住宅も、ライフラインから部屋の配置も全て分けるようにする。万が一、娘達が家賃を払わなかったら不動産屋に管理させる。管理委託業務にすれば、不動産屋が家賃回収に来てくれるため、Iさんが直接顔を合わせなくてもよいのだ。